

がん治療の今

■■■23

幅広い支援行っ

日本人は生涯で「2人に1人が、がんにかかる」ともいわれています。最近では、セカンドオピニオンの積極的な活用や、自分の意向などを医師らに伝えながら、治療を受けるケースも多くなってきました。

しかし、緩和ケアはま

だ、遅れている様子もつかえます。「死を連想し、治療が何もできなくなつて受ける」と、誤解されるケースが多いからです。

緩和ケアは、がんが進

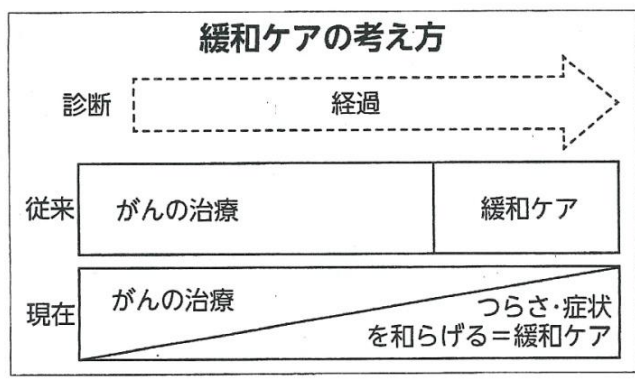
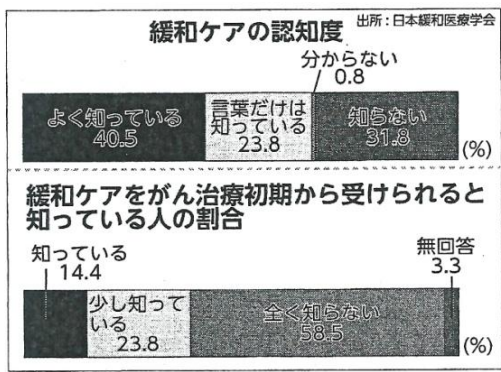
行した時期だけではなく、がんが見つかったときやがんの治療中にも、必要に応じて受けられます。がんを診断された時は、ひどく落ち込んだり、不安で眠れないこともあるでしょう。また、治療中は食欲が無くなったり、痛みが強いこともあるかもしれません。

こうした「つらさを和らげる」ため、緩和ケア

の受診を希望される際は、主治医や看護師に伝えてください。また、入

心身の痛みを和らげる

緩和ケア外来



緩和ケアは、がんに伴う身体と、心の痛みを和らげる役割を持っています。患者本人や家族が「自分らしく過(せ)る」ように、支えることを目指します。身体をつらさだけではなく、心のつらさの改善や、療養生活の問題に対しても、社会保障制度の活用を含めて、幅広い支援を行うことも大切な役割です。

いつでも相談を
西胆振管内のがん診療

院中に緩和ケアを受けられる場合は、緩和ケアを担当するチームが診察や話を聞くために病室を訪問し、がんの診療に当たる主治医と協力して、痛みやつらさを和らげる支援を行います。

緩和ケアチームは、身体症状や精神症状を担当する医師のほか、チームでの活動を専門的に行う看護師や薬剤師、ソーシャルワーカーなどの専門員で構成されており、患者の状況に応じて診療に

せいこう・ひろみ 1994年(平成6年)新日鉄室蘭総合病院(現製鉄記念室蘭病院)入職。緩和ケア外来看護課長。2008年(平成20年)緩和ケア認定看護師取得。46歳。

製鉄記念室蘭病院 認定看護師・青郷裕美さん

連携拠点病院(日鋼記念病院)や、北海道がん診療連携指定病院(市立室蘭総合病院、伊達赤十字病院、製鉄記念室蘭病院)では、スムーズに緩和ケアを受けられる体制を整えています。入院中だけでなく、外来診療でも受けることができます。

外来受診中に緩和ケアの受診を希望される際は、主治医や看護師に伝えてください。また、入

「痛みやつらさは、仕方がないことだ」と諦めることはありません。つらい気持ちを一人に伝えることが第一歩です。

がんを診断された時、がんの治療中や治療後に痛みや気持ちのつらさ、不安があるときは、緩和ケアについて、いつでも主治医や看護師、がん相談支援センターにご相談ください。

また、自宅に居ながら緩和ケアを受けたい場合は、訪問診療を行っている診療所や訪問看護ステーションと連携することで、受診が可能です。必要な支援を行ったり、希望に応じて、緩和ケア病棟への紹介を行うこともあります。